

平成20年度病害虫発生予察指導情報

対象病害虫：斑点米カメムシ類（No. 2）

平成20年8月19日
鳥取県病害虫防除所

1 情報の内容

8月13～15日に行った巡回調査定点における乳熟～糊熟期の本田すくい取り調査の結果、斑点米カメムシ類の発生ほ場率は62.7%（平成：41.4%）で、平年に比べて高かった。

穂揃い期～乳熟初期にかけて防除を行っていないほ場及び周辺に発生源（イネ科雑草）の多いほ場では発生状況に注意し、要防除水準（捕虫網50回振りすくい取り調査で4頭以上）を超えている場合は防除を行う。

2 発生状況など

- (1) 8月15日現在、水田内では、アカスジカスミカメ、クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシなどの発生が認められる。発生ほ場率は62.7%（平成：41.4%）、捕虫網50回振りすくい取り平均虫数は9.1頭（平成：3.1頭）、要防除水準（50回振り成幼虫数4頭以上）を超えているほ場率は29.9%（平成：22.2%）で、平年に比べて多い発生であった。
- (2) カメムシ類の発生状況は、ほ場間差及び地域間差が大きく、水田周辺に出穂したイネ科雑草が多いほ場及び地域での発生が多い傾向である。
- (3) 向こう1か月の気象予報から、カメムシ類の水田への飛来、イネへの加害活動に好適な条件となると予想される。

3 防除上注意すべき事項

- (1) 8月上旬に出穂期を迎えたほ場（ひとめぼれ、コシヒカリなど）で、穂揃い期～乳熟初期にかけて防除を行っていないほ場では、発生状況を確認し、要防除水準を超えている場合は直ちに防除を行う。
また、防除を行ったほ場においても、周辺に発生源（イネ科雑草）の多い場合は、発生状況に注意し、要防除水準を超えている場合は防除を行う。
- (2) 現在、出穂期～穂揃い期を迎えているほ場（中生品種、遅植えなど）では、穂揃い期～乳熟初期の基本防除を徹底する。その後も発生が多い場合には、7～10日間隔で1～2回の追加防除を行う。
また、出穂20日前頃に水田周辺のイネ科雑草地、畦畔などの草刈りを行っていない場合は、穂揃い期～乳熟初期に草刈りを行い、草刈り後直ちに防除する。
- (3) 水田内で穂をつけたヒエ類は、カメムシ類の発生を助長するので直ちに取り除く。
- (4) 要防除水準は、捕虫網50回振りすくい取り調査で4頭以上である。
- (5) 防除薬剤は、平成20年度病害虫発生予察注意報第5号（7月23日発表）を参照する。